

年度	2025年度	開講部局	情報科学部		
講義コード	KA111001	科目区分	専門教育科目		
授業科目名	確率論基礎				
授業科目名 (フリガナ)	カクリツロンキソ				
英文授業科目名	Fundamentals of Probability Theory				
担当教員名	土肥 正				
担当教員名 (フリガナ)	ドヒ タダシ				
研究室の場所	A1-742			内線番号	7698
E-mailアドレス	dohi@hiroshima-u.ac.jp				
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期 4ターム		
曜日・時限・講義室	(4T) 水1-4：総L102				
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	対面, オンライン（同時双方向型）, オンライン（オンデマンド型） 講義中心		
単位	2	週時間	4	使用言語	B：日本語・英語
対象学生	学部1年生				
学修の段階	1：入門レベル				
学問分野(分野)	25：理工学				
学問分野(分科)	01：数学・統計学				
授業のキーワード	確率論、確率変数、確率分布				
教職専門科目		教科専門科目			
プログラムの中での この授業科目の 位置づけ (学部生対象科目のみ)					
到達度評価の評価項目 (学部生対象科目のみ)	計算機科学プログラム (能力・技能) ・A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力． データ科学プログラム (知識・理解) ・D1. 統計とデータ解析の理論体系を理解し，ビッグデータの質的／量的情報を的確かつ効率的に分析するための知識と能力． (能力・技能) ・A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力． 知能科学プログラム (能力・技能) ・A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力．				
授業の目標・概要等	我々の身の周りには不確実な事象が数多く存在する．そのような不確実性下での現象を定量的に取扱うための数学的手段が確率論であり，情報科学に限らず，自然科学、工学、人文・社会科学、生物・医療のあらゆる領域において広く利用されている．本講義では大学における確率論の導入教育として、確率論の基礎知識について学ぶ．具体的には、組合せ確率に基づいた古典的確率論の基礎事項を確認し，標本空間や確率変数の基本概念を理解する．ここでは測度論など高度に数学的な概念を用いることなく，‘確率’のもつ本質的なイメージを直感的に掴むことを目標とする．さらに、具体的に確率分布関数が与えられた場合に，平均，分散，各種モーメントを計算する能力，さらには分布の畳込み演算やモーメント母関数を計算する能力を修得する．これにより、インフォマティクスとデータサイエンスの両分野において必要とされる確率論の基本的なスキルを修得することが可能となり、2年次以降に開設される統計学科目、機械学習やデータマイニング等のデータ処理科目、確率モデリングに関する講義科目を理解するための学問的土台を提供する．				

授業計画	第1回 講義方針の説明と確率論の学問的背景～コイン上げとサイコロ投げ～ 第2回 長さを測る 第3回 標本空間と事象 第4回 確率と確率変数への道一写像（１） 第5回 確率と確率変数への道一写像（２） 第6回 確率（１） 第7回 確率（２） 第8回 １つの確率変数（１） 第9回 １つの確率変数（２） 第10回 複数個の確率変数（１） 第11回 複数個の確率変数（２） 第12回 確率変数間の依存性と独立性（２） 第13回 確率変数間の依存性と独立性（２） 第14回 確率変数列に関する極限定理 第15回 期末試験 期末試験(進捗状況に応じて中間試験)を実施予定。必要に応じてレポートを課す予定。
教科書・参考書等	「工科系のための確率・統計」大鏑史男、数理工学社
授業で使用するメディア・機器等	テキスト, 映像資料, Microsoft Teams, Microsoft Stream, Microsoft Forms
【詳細情報】	テキスト, パワーポイントスライド
授業で取り入れる学習方法	
予習・復習へのアドバイス	講義で学んだ内容について復習することが望ましい。第二回目～第十四回目の各回の講義内容は相互に関連しているため、前回の内容を十分理解した上で講義に臨んで頂きたい。確率論基礎は２年次以降に開講される多くの専門科目に深く関連しているため、確率論への苦手意識を払しょくできるようにして欲しい。
履修上の注意 受講条件等	今年の「確率論基礎」の講義は以下の要領で行います。 基本的に対面講義を行います。学生の便宜を考え、オンライン/オンデマンドの対応も検討します。 但し、期末試験は全員対面式で行いますので、注意して下さい。 期末試験の日時と場所は後日通知します。これから大学の教育本部と講義実施形式についての許可申請を行いますので、今後、内容が変更になる可能性があることを承知しておいて下さい。 情報科学部１年生でオンライン講義受講希望者は予め教員に連絡して下さい。同様に、過年度生・他学部生で対面講義を希望する場合は教室の容量に応じて可否を判断しますので、予め教員に連絡して下さい。 講義は Teams で行います。講義コードは掲示板に掲載していますので各自で登録して下さい。対面で講義に参加する場合も Teams の登録はしておいて下さい。受講生の便宜を図るため、オンライン講義と同時にビデオのオンデマンド配信も行うことを予定しています。
成績評価の基準等	期末試験（進捗状況に応じて中間試験）、レポートの点数によって評価する。確率論に対する基礎知識と応用における考え方、および算法を習得することに対する達成度から評価し、配分は１００点満点、６０点以上を合格とする。
実務経験	
実務経験の概要とそれに基づく授業内容	
メッセージ	
その他	
すべての授業科目において、授業改善アンケートを実施していますので、回答に協力してください。回答に対しては教員からコメントを入力しており、今後の改善につなげていきます。	

年度	2025年度	開講部局	情報科学部		
講義コード	KA103001	科目区分	専門教育科目		
授業科目名	プログラミングI				
授業科目名 (フリガナ)	プログラミング I				
英文授業科目名	Programming I				
担当教員名	亀井 清華,VICTOR PARQUE				
担当教員名 (フリガナ)	カメイ サヤカ,ヴィクター パルケ				
研究室の場所	総合科学部研究C棟C722			内線番号	7685
E-mailアドレス	s10kamei@hiroshima-u.ac.jp				
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 前期 セメスター（前期）		
曜日・時限・講義室	(前) 水5-6：東図書館3Fセミナー室A,東図書館3Fセミナー室B,東図書館3Fセミナー室C,東図書館3Fセミナー室D				
授業の方法	講義・演習	授業の方法 【詳細情報】	対面, オンライン（オンデマンド型）		
			講義と演習を半分ずつ実施, 講義回はオンラインで実施		
単位	2	週時間	2	使用言語	B：日本語・英語
対象学生	1年次生				
学修の段階	1：入門レベル				
学問分野(分野)	25：理工学				
学問分野(分科)	02：情報科学				
授業のキーワード	コンピュータプログラミング, C言語				
教職専門科目		教科専門科目			
プログラムの中での この授業科目の 位置づけ (学部生対象科目のみ)					
到達度評価の評価項目 (学部生対象科目のみ)	計算機科学プログラム (能力・技能) ・ A. 情報基盤の開発技術, 情報処理技術, データを分析して新しい付加価値を生む技術. ・ B. 新たな課題を自ら発見し, データに基づいた定量的かつ論理的な思考と, 多角的視野と高度な情報処理・分析により, 課題を解決する能力. データ科学プログラム (能力・技能) ・ A. 情報基盤の開発技術, 情報処理技術, データを分析して新しい付加価値を生む技術. ・ B. 新たな課題を自ら発見し, データに基づいた定量的かつ論理的な思考と, 多角的視野と高度な情報処理・分析により, 課題を解決する能力. 知能科学プログラム (能力・技能) ・ A. 情報基盤の開発技術, 情報処理技術, データを分析して新しい付加価値を生む技術. ・ B. 新たな課題を自ら発見し, データに基づいた定量的かつ論理的な思考と, 多角的視野と高度な情報処理・分析により, 課題を解決する能力.				
授業の目標・概要等	コンピュータプログラミングの基礎的技法を学び, C言語プログラムの具体的作成手順を習得する. 具体的には, (1)与えられた処理要求を, プログラムにコード化するための基本的な考え方を身につける. (2) C言語で書かれた簡単なプログラムについて, それがどのような動きをするのかを理解し説明できる能力を習得する. (3) 基本的な処理要求を, C言語でプログラム化して実行し, 正しく計算結果を得る技術を学ぶ.				
授業計画	第1回 ガイダンス, プログラミングとは, プログラム作成・実行の手順 (東図書館セミナー室) 第2回 hello, world出力, 変数の宣言と代入, コメント文 (オンデマンド) 第3回 演習 (東図書館セミナー室) 第4回 数値型 (整数型と実数型), 文字型, printfの書式設定, エラーメッセージとその対処 (オンデマンド) 第5回 演習 (東図書館セミナー室) 第6回 条件式, if文, if-else文, インクリメント演算子, for文 (オンデマンド) 第7回 演習 (東図書館セミナー室) 第8回 中間試験 (東図書館セミナー室) 第9回 while文, do文, for文との相互変換, 多重ループ, キーボード入力 (オンデマンド) 第10回 演習 (東図書館セミナー室) 第11回 実数と整数が混在した計算, 型変換, 1次元配列 (オンデマンド) 第12回 演習 (東図書館セミナー室) 第13回 2次元配列, 配列の初期化, 配列を用いた応用問題, switch文 (オンデマンド) 第14回 演習 (東図書館セミナー室) 第15回 演習 レポート・中間試験・期末試験				

教科書・参考書等	(教科書) C の絵本, 第 2 版, (株) アンク著, 翔泳社. ISBN: 9784798150383 (参考書) 明快入門 C, 林 晴比古, ソフトバンククリエイティブ. ISBN 978-4797373264
授業で使用する メディア・機器等	配付資料, Microsoft Teams
【詳細情報】	教科書, 配付資料, パワーポイント
授業で取り入れる 学習方法	授業後レポート
予習・復習への アドバイス	講義室またはオンラインの授業で学んだ知識を用いて, 次週の端末室での演習課題に取り組む。サンプルプログラムを入力, 実行することが重要。良いサンプルプログラムを読み, 理解することはプログラミング能力の上達につながる。
履修上の注意 受講条件等	(1) 授業は, 講義と演習を 1 週ごとに交互に実施する。(2) 演習では, C 言語の使い方, プログラム作成に必要な各ツールの使い方, ならびにいくつかの例題を用いたプログラミングの実習を行う。(3) 提示された課題に対して, 各自が, 自分でプログラムを作成し, 実行して結果を求め, それらをレポートにまとめて, 指定期日までに提出しなければならない。(4) 中間試験で 70% 未満であった場合, 2 ターム目の演習はすべて対面で受講することとする。
成績評価の基準等	プログラミング課題に対するレポート評価と, 中間試験および期末試験により総合評価する。レポートで 60% 以上, かつ期末試験で 60% 以上の場合のみ合格とする。
実務経験	
実務経験の概要と それに基づく授業内容	
メッセージ	プログラミングの知識や技術を習得するためには, 自ら問題を解決し, 困難を乗り越える積極的な姿勢が不可欠です。受動的な態度では, 授業目標を達成することはできませんので, そのつもりで授業に参加してください。
その他	履修は情報科学部及び基本情報処理特定プログラムの学生に限定しています(他学部の学生は受講できません)。基本情報処理特定プログラムの学生で履修を希望する場合は, 個別に申し出てください。
すべての授業科目において, 授業改善アンケートを実施していますので, 回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力しており, 今後の改善につなげていきます。	

年度	2025年度	開講部局	情報科学部		
講義コード	KA104001	科目区分	専門教育科目		
授業科目名	プログラミングII				
授業科目名 (フリガナ)	プログラミング 2				
英文授業科目名	Programming II				
担当教員名	北須賀 輝明				
担当教員名 (フリガナ)	キタスカ テルアキ				
研究室の場所	A1-823			内線番号	4491
E-mailアドレス	kitasuka at hiroshima-u.ac.jp				
開講キャンパス	東広島	開設期	1年次生 後期 セメスター（後期）		
曜日・時限・講義室	(後) 木5-6：東図書館2F演習室,東図書館3Fセミナー室A,東図書館3Fセミナー室B,東図書館3Fセミナー室C,東図書館3Fセミナー室D				
授業の方法	講義・演習	授業の方法 【詳細情報】	対面, オンライン（同時双方向型）, オンライン（オンデマンド型）		
			講義と演習を半分ずつ実施． 講義はオンライン（オンデマンド型と同時双方向型を併用），演習は対面．		
単位	2	週時間	2	使用言語	B：日本語・英語
対象学生	情報科学部1年生				
学修の段階	1：入門レベル				
学問分野(分野)	25：理工学				
学問分野(分科)	02：情報科学				
授業のキーワード	コンピュータプログラミング, C言語				
教職専門科目		教科専門科目			
プログラムの中での この授業科目の 位置づけ (学部生対象科目のみ)					
到達度評価の評価項目 (学部生対象科目のみ)	計算機科学プログラム (能力・技能) ・ A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・ B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力． データ科学プログラム (能力・技能) ・ A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・ B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力． 知能科学プログラム (能力・技能) ・ A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・ B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力．				
授業の目標・概要等	コンピュータプログラミングの基礎的技法に対する理解を深め，具体的な作成手順について習熟することを目標としている． プログラミングを実際に行うにあたっての言語としてCを用いる．本講義の履修により， (1) 与えられた処理要求をプログラムに構造的にコード化するための基礎的な考え方， (2) Cで記述された比較的簡単なプログラムについて，それがどのように動くのかを把握し説明できる能力， (3) 基礎的なデータ構造（配列とポインタ）に関する仕組みを理解し，それらを利用したプログラミングができる能力 が身につく．				

授業計画	第1回 ガイダンス（復習テストと簡単な演習） 第2回 前期（プログラミングI）の復習とC言語の基礎 第3回 前期（プログラミングI）の復習とC言語の基礎に関する演習 第4回 関数 第5回 関数の演習 第6回 文字列処理 第7回 文字列処理の演習 第8回 ポインタ 1（変数・関数の引数・配列） 第9回 ポインタ 1 の演習 第10回 ポインタ 2（コマンドライン引数・動的メモリ確保） 第11回 ポインタ 2 の演習 第12回 2進数表現 第13回 2進数表現の演習 第14回 浮動小数点型 第15回 浮動小数点型の演習 期末試験 演習日はプログラミング課題を課す． 講義日は練習問題を課す．
教科書・参考書等	教科書：明快入門 C, 林 晴比古, ソフトバンククリエイティブ, 2013. ISBN 978-4797373264, 税別1,900円. 参考書：Cの絵本 第2版, アンク著, 翔泳社, 2016. ISBN 978-44798150383, 税別1,380円.
授業で使用するメディア・機器等	テキスト, 配付資料, 映像資料, Microsoft Teams, Microsoft Stream, moodle
【詳細情報】	必携PC
授業で取り入れる学習方法	小テスト / クイズ形式, 授業後レポート
予習・復習へのアドバイス	・初回 プログラミングIの復習をしてくること． ・偶数回の予習： 講義スライドや教科書でその回の範囲を予習すること．事前に配布する練習問題を解いてくこと． ・奇数回（第1回を除く）の予習： プログラミング課題に取り組み、分からない箇所を明確にすること．
履修上の注意 受講条件等	(1) 授業は、講義と演習を1週ごとに交互に実施する． (2) 演習では、講義で学んだC言語の機能について例題を用いたプログラミングの実習を行う． (3) 提示された課題に対して、各自が、自分でプログラムを作成し、実行して結果を求め、それらをレポートにまとめて、指定期日までに提出しなければならない．
成績評価の基準等	プログラミング課題に対するレポート評価と、期末試験により総合評価する． レポートで60%以上、かつ試験で60%以上の場合のみ合格とする。 レポートには、プログラミング課題に加えて、講義日の練習問題が含まれる．
実務経験	有り
実務経験の概要と それに基づく授業内容	家電メーカーでソフトウェア開発を経験．
メッセージ	プログラミングの知識や技術を習得するためには、自ら問題を解決し、困難を乗り越える積極的な姿勢が不可欠である．受動的な態度では、授業目標を達成することはできないので、そのつもりで授業に参加すること．
その他	
すべての授業科目において、授業改善アンケートを実施していますので、回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力しており、今後の改善につなげていきます。	

年度	2025年度	開講部局	情報科学部		
講義コード	KA235001	科目区分	専門教育科目		
授業科目名	情報科学演習I				
授業科目名 (フリガナ)	ジョウホウカガクエンシュウ Ⅰ				
英文授業科目名	Informatics and Data Science Exercise I				
担当教員名	亀井 清華,檜垣 徹				
担当教員名 (フリガナ)	カメイ サヤカ,ヒガキ トオル				
研究室の場所	総合科学部C722			内線番号	7685
E-mailアドレス	s10kamei@hiroshima-u.ac.jp				
開講キャンパス	東広島	開設期	3年次生 前期 1ターム		
曜日・時限・講義室	(1T) 月5-7：東図書館3Fセミナー室A,東図書館3Fセミナー室B,東図書館3Fセミナー室C,東図書館3Fセミナー室D				
授業の方法	演習	授業の方法 【詳細情報】	対面, オンライン（オンデマンド型）		
			演習中心		
単位	1	週時間	3	使用言語	B：日本語・英語
対象学生	情報科学部				
学修の段階	3：中級レベル				
学問分野(分野)	25：理工学				
学問分野(分科)	02：情報科学				
授業のキーワード	プログラミング、データ構造、画像処理				
教職専門科目		教科専門科目			
プログラムの中での この授業科目の 位置づけ (学部生対象科目のみ)	情報科学部専門教育科目に属し、これまでの授業で身に付けたハードウェア・ソフトウェアの知識を用いて課題を解決することにより、これらの知識をより深く理解すると同時に問題解決能力も身に付ける。 ・この授業の前提となる科目： プログラミングI-IV アルゴリズムとデータ構造 ・この授業に関連する科目： 情報データ科学演習II				
到達度評価の評価項目 (学部生対象科目のみ)	計算機科学プログラム (能力・技能) ・A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力． ・D3. ハードウェアとソフトウェアの知識及びデータを効率的に処理するプログラミング能力． データ科学プログラム (知識・理解) ・D1. 統計とデータ解析の理論体系を理解し，ビッグデータの質的／量的情報を的確かつ効率的に分析するための知識と能力． (能力・技能) ・A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力． 知能科学プログラム (能力・技能) ・A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力． ・D2. 人工知能やIoTなどの応用や発展に寄与できる情報処理能力やデータ分析能力．				
授業の目標・概要等	プログラミングI～IIIで学んだC言語を用いて，最新の計算機が持つ演算能力の活かし方とその評価、システム・アプリケーションソフトウェア構築に必要な諸技法の習得を目的とする。 デジタル画像処理の基礎をpythonプログラミングを通じて習得する。				

授業計画	第1回 ガイダンス（東図書館 セミナー室に集合してください） 2つのテーマについて，3週ずつ実施する． 第2，3，4回 テーマ1 アルゴリズムとデータ構造(亀井) 第5，6，7回 テーマ2 画像処理（檜垣） 第8回 演習やレポート課題に関する質疑 ・アルゴリズムとデータ構造 講義ごとにレポート課題を出題する． ・画像処理 講義ごとにレポート課題を出題する． === ・アルゴリズムとデータ構造 C言語によるアルゴリズムとデータ構造の実現方法について解説します． 第2回 配列を用いて，スタック，キュー，線形リストの実装を行います．また，その応用例としてグラフの探索アルゴリズムを学び，実装します． 第3回 リストによるスタック，キューの実装を行います．また，2分探索木も実装します． 第4回 ヒープ構造について学び，その応用例として優先度付きキューとヒープソートを実装します． === === ・画像処理 Pythonによる画像処理の基礎的なプログラミングを学びます。 第5回 Pythonの使い方，画像の読み込み，表示，描画などのプログラムを作成する。 第6回 輝度を変換する代表的な変換と，輝度値のしきい値処理のプログラムを作成する。 第7回 代表的なフィルタ処理プログラムを作成し，大量の画像データに対して処理を行う。 ===
教科書・参考書等	配布資料
授業で使用するメディア・機器等	テキスト, 配付資料, Microsoft Teams
【詳細情報】	配付資料，PC
授業で取り入れる学習方法	授業後レポート
予習・復習へのアドバイス	各テーマについてレポートを提出すること． ・アルゴリズムとデータ構造について 各回では主にアルゴリズムとデータ構造自体の説明をします． 基本的なC言語の文法については予め各自で復習をしておいてください． ・画像処理について 事前に環境構築のための資料を配布しますので，第1回ガイダンスまでに実施してください。
履修上の注意 受講条件等	・すべてのテーマで課題を期日までに提出すること．
成績評価の基準等	本演習の合格のためには，両方のテーマの合格を必要とする． ・アルゴリズムとデータ構造 レポートで60%以上を合格とする。 ・画像処理 レポートで60%以上を合格とする。
実務経験	
実務経験の概要と それに基づく授業内容	
メッセージ	
その他	

すべての授業科目において、授業改善アンケートを実施していますので、回答に協力してください。
回答に対しては教員からコメントを入力しており、今後の改善につなげていきます。

年度	2025年度	開講部局	情報科学部		
講義コード	KA236001	科目区分	専門教育科目		
授業科目名	情報科学演習II				
授業科目名 (フリガナ)	ジョウホウカガクエンシュウ 2				
英文授業科目名	Informatics and Data Science Exercise II				
担当教員名	伊藤 靖朗,平川 真				
担当教員名 (フリガナ)	イトウ ヤスアキ,ヒラカワ マコト				
研究室の場所	教育学部A棟7階710室			内線番号	6780
E-mailアドレス	mhirakawa@hiroshima-u.ac.jp				
開講キャンパス	東広島	開設期	3年次生 前期 2ターム		
曜日・時限・講義室	(2T) 木1-3：東図書館3Fセミナー室A,東図書館3Fセミナー室B,東図書館3Fセミナー室C,東図書館3Fセミナー室D,I111				
授業の方法	演習	授業の方法 【詳細情報】	対面, オンライン (オンデマンド型)		
			演習中心		
単位	1	週時間	3	使用言語	B：日本語・英語
対象学生	3年次生				
学修の段階	3：中級レベル				
学問分野(分野)	25：理工学				
学問分野(分科)	02：情報科学				
授業のキーワード	並列処理、Rによるデータ分析				
教職専門科目		教科専門科目			
プログラムの中での この授業科目の 位置づけ (学部生対象科目のみ)	実際的な問題・課題を解決するための演習および数値計算的手法、および関連資料の収集により、問題・課題を解決する能力を身に付ける。				
到達度評価の評価項目 (学部生対象科目のみ)	計算機科学プログラム (能力・技能) ・ A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・ B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力． ・ D3. ハードウェアとソフトウェアの知識及びデータを効率的に処理するプログラミング能力． データ科学プログラム (知識・理解) ・ D1. 統計とデータ解析の理論体系を理解し，ビッグデータの質的／量的情報を的確かつ効率的に分析するための知識と能力． (能力・技能) ・ A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・ B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力． 知能科学プログラム (能力・技能) ・ A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． ・ B. 新たな課題を自ら発見し，データに基づいた定量的かつ論理的な思考と，多角的視野と高度な情報処理・分析により，課題を解決する能力． ・ D2. 人工知能やIoTなどの応用や発展に寄与できる情報処理能力やデータ分析能力．				
授業の目標・概要等	情報科学部のこれまでの講義で幅広く学んできた知識を踏まえて，専門的かつ実践的な内容について演習を行う。与えられた演習課題や問題に対して，自ら解決方法を見つけ出して対処し，その結果をレポートとしてまとめ報告する能力を習得する。具体的には「並列処理」と「Rによる社会科学データ分析」のテーマについて演習を行う。 並列処理 複数のプロセッサコアを用いて並列に計算することによって計算時間を短縮する並列処理についての演習を行い、並列処理プログラミングを学ぶ。 Rによる社会科学データ分析 Rのライブラリを用いたデータハンドリング・可視化・分析についての演習を行い，心理学領域のデータ分析を経験する。				

授業計画	第1週 ガイダンス 情報科学演習IIでは、「並列処理」と「Rによる社会科学データ分析」の2つのテーマについて、演習を行います。各テーマの演習は、3週で構成されます。 ガイダンスでは、2つのテーマを行うにあたり、資料の配布と注意事項を説明します。 第2, 3, 4週 並列処理（担当：伊藤） 第2週：並列処理とMPIを用いた並列プログラミング 第3週：MPIを用いた並列処理 第4週：MPIを用いた並列数値積分 第5, 6, 7週 Rによる社会科学データ分析（担当：平川） 第5週 tidyverseを用いたデータハンドリング 第6週 ggplot2を用いたデータ可視化 第7週 心理学データの分析演習 第8週：期末レポートの準備と作成 各テーマで、期末レポートを課します。 演習の実施形態 並列処理：オンデマンド（希望者は対面） Rによる社会科学データ分析：オンデマンド（希望者は対面）
教科書・参考書等	並列処理：資料を配布します Rによる社会科学データ分析：資料を配布します
授業で使用するメディア・機器等	配付資料, Microsoft Teams, moodle
【詳細情報】	必携PC
授業で取り入れる学習方法	授業後レポート
予習・復習へのアドバイス	並列処理：各回の作業を期日までに行なってください。 Rによる社会科学データ分析：各回の作業を期日までに行なってください。
履修上の注意 受講条件等	
成績評価の基準等	それぞれのテーマで期末レポートを課し、その他の提出物と総合して評価します。 各テーマの期末レポートがそれぞれ6割以上であることを単位認定の基準とします。
実務経験	
実務経験の概要と それに基づく授業内容	
メッセージ	
その他	
すべての授業科目において、授業改善アンケートを実施していますので、回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力しており、今後の改善につなげていきます。	

年度	2025年度	開講部局	情報科学部		
講義コード	KA239001	科目区分	専門教育科目		
授業科目名	人工知能概論				
授業科目名 (フリガナ)	ジンコウチノウガイロン				
英文授業科目名	Introduction to Artificial Intelligence				
担当教員名	小蔵 正輝				
担当教員名 (フリガナ)	オグラ マサキ				
研究室の場所	経済学部棟415			内線番号	7273
E-mailアドレス	oguram@hiroshima-u.ac.jp				
開講キャンパス	東広島	開設期	2年次生 前期 1ターム		
曜日・時限・講義室	(1T) 月1-4：経B257				
授業の方法	講義	授業の方法 【詳細情報】	対面		
			講義中心、板書多用		
単位	2	週時間	4	使用言語	J：日本語
対象学生					
学修の段階	2：初級レベル				
学問分野(分野)	25：理工学				
学問分野(分科)	02：情報科学				
授業のキーワード	人工知能，探索，確率モデル，状態推定，学習と認識，言語と論理				
教職専門科目		教科専門科目			
プログラムの中での この授業科目の 位置づけ (学部生対象科目のみ)					
到達度評価の評価項目 (学部生対象科目のみ)	総合科学プログラム (知識・理解) ・当該の個別学問体系の重要性と特性、基本となる理論的枠組みへの知識・理解 電気システム情報プログラム (能力・技能) ・電気，システム，情報分野の基礎概念，知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する能力 計算機科学プログラム (知識・理解) ・D1. 計算機科学の基礎となる理論体系を理解し，科学的論理性に基づいた情報処理技術を駆使して，高次元データを収集・処理するための知識と能力． データ科学プログラム (知識・理解) ・D1. 統計とデータ解析の理論体系を理解し，ビッグデータの質的／量的情報を的確かつ効率的に分析するための知識と能力． (能力・技能) ・A. 情報基盤の開発技術，情報処理技術，データを分析して新しい付加価値を生む技術． 知能科学プログラム (知識・理解) ・D1. 人間が持つ高度な知能とその計算機による実現についての体系的な深い理解． (能力・技能) ・D2. 人工知能やIoTなどの応用や発展に寄与できる情報処理能力やデータ分析能力．				
授業の目標・概要等	人工知能の基本概念や歴史を理解する．探索、最適経路の探索、ゲーム理論、動的計画法、確率とベイズ理論、強化学習、フィルタリング、クラスタリング、教師あり・なし学習、ニューラルネットワーク、自然言語処理、記号論理、証明、質問応答などの人工知能の主要な領域について学ぶ．				

授業計画	第1回 人工知能をつくり出そう・状態空間と基本的な探索 第2回 最適経路の探索 第3回 ゲームの理論 第4回 動的計画法 第5回 確率とベイズ理論の基礎 第6回 確率的生成モデルとナイーブベイズ 第7回 強化学習 第8回 ベイズフィルタ 第9回 粒子フィルタ 第10回 クラスタリングと教師なし学習 第11回 パターン認識と教師あり学習 第12回 ニューラルネットワーク 第13回 自然言語処理 第14回 記号論理 第15回 証明と質問応答
教科書・参考書等	イラストで学ぶ 人工知能概論 改訂第2版 (KS情報科学専門書) 2020/12/24 谷口 忠大 (著)
授業で使用するメディア・機器等	テキスト, 配付資料, Microsoft Teams, moodle
【詳細情報】	
授業で取り入れる学習方法	
予習・復習へのアドバイス	事前に教科書に目を通しておくとう内容の理解が容易になると思います。また、講義で紹介した手法を実際のデータに適用してみるにより各手法の理解が深まります。
履修上の注意 受講条件等	
成績評価の基準等	講義中の複数回のレポートの総合得点により決定する。
実務経験	
実務経験の概要と それに基づく授業内容	
メッセージ	人工知能の基本的な概念や歴史に対する理解をしっかりと築くことが重要です。また、人工知能の分野は急速に進展しているので、新しい手法や技術にも柔軟に対応できるよう継続的な学習と興味を持つ姿勢が大切です。
その他	
すべての授業科目において、授業改善アンケートを実施していますので、回答に協力してください。 回答に対しては教員からコメントを入力しており、今後の改善につなげていきます。	